

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

1 実践テーマ	【Ⅲ】
2 実施対象者	北九州市立足立中学校 全校生徒 316名 保護者 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合, 道徳 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。</li> <li>・ 車いす競技の選手の方の話を聞いたり、競技用車いすの使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。</li> </ul>
5 取組内容	<p>①1年生「国際車いすバスケットボール大会観戦」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月16日(金)に1年生全クラスで、「第15回北九州チャンピオンズカップ 国際車いすバスケットボール大会」の観戦を行った。</li> <li>・ 事前学習として道徳の時間に「新ちゃんがないた」という教材で身体障害者への理解を深める授業を行った。</li> <li>・ 事後指導として、国際車いすバスケットボール大会を観戦しての感想文を書いた。</li> </ul> <p>②2年生「車いすソフトボール日本代表選手 スポーツ講演会」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12月4日(火)に車いすソフトボール日本代表の選手、北九州大学教授、大学生にお越しいただき、講演会を行った。</li> </ul> <p>講演会の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I部 講演会</li> <li>・ II部 車いす体験             <ul style="list-style-type: none"> <li>①車いすリレー(全員参加)</li> <li>②キャッチボール, バッティング, ノック体験(代表生徒)</li> <li>③車いすソフトボール試合(代表生徒、職員)</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">障害者と健常者(大学生・中学生・中学校職員)の男女が混</p>

じたチームで試合を行った。

- ・事前学習として車いすソフトボールの学習を行った。
- ・事後指導として講演会を振り返っての感想文を書いた。



### ③「車いすテニス二條実穂選手 スポーツ講演会」の取組

- ・11月28日(水)にリオパラリンピック車いすテニス日本代表二條実穂選手にお越しいただき、講演会を行った。

講演会の流れ

- ・Ⅰ部 講演会
- ・Ⅱ部 車椅子体験
  - ①車椅子リレー(全員参加)
  - ②車椅子テニス(代表生徒、職員)
- ・事前学習として車いすテニス、二條選手の学習を行った。
- ・事後指導として講演会を振り返っての感想文を書いた。



## 6 主な成果

### ①1年生「国際車いすバスケットボール大会観戦」

○車いすバスケットボールのゴールが健常者の行うバスケットボールと同じ規格で行われていることなどを知り、共生社会の担い手としての意識を高めることができた。

○障害があっても自分たちと同じようにスポーツに打ち込む姿を見て、自分自身もこれまで以上に頑張ろうとする心情を養うことができた。

〈生徒の振り返り〉

・私は普段、部活でバスケットをしているけど、車いすバスケットは車いすと車いすをぶつけ合いながらボールを運んでいてかっこいいと思いました。機会があれば、車いすバスケットを体験してみたいです。

・車いすバスケットの選手はすごいなと思いました。手の力だけで進んだり、シュートを決めたり、僕にはできないことができるからです。でも、選手たちがこのようなことができるのは、しっかりとした目標があるからだと感じました。何回も起き上がり、さらに頑張る選手を見ていると、自分も頑張ろうという気持ちが湧いてきました。

### ②2年生「車いすソフトボール日本代表選手 スポーツ講演会」

・パラリンピックの歴史や車いすソフトボールの世界での普及の様子などを聞き、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めることができた。

	<p>・障害者と健常者が同じルールで行う競技があることを知り、障害をもった方たちも、同じ社会の中で生き生きと生活していることに気づくと共に、障害者の方とも積極的に関わろうとする意識を育むことができた。</p> <p>〈生徒の振り返り〉</p> <p>・車いすの競技が始まったきっかけなども知り、とても興味深かったです。競技をする人の性別や障害の有無、障害の内容によって点数がちがっていて、平等になっていたのも、すごいなと思いました。選手のプレーも生で見ることができて迫力がありません。</p> <p>・今日始めて車いすに乗り難しかったけど、選手の方はそれを上手に乗っていてすごいと思いました。楽しかったし、障害があってもいろいろな工夫をして上手にプレーしていたからすごいと思いました。これからは、もっとパラリンピックにも興味をもちたいと思いました。</p> <p>③3年生「車いすテニス二條実穂選手 スポーツ講演会」の成果</p> <p>○二條選手の東京パラリンピック出場に向けた情熱に触れ、東京オリンピック・パラリンピックへの期待や意識を高めることができた。</p> <p>○パラリンピアンから「夢は叶えるもの」とのエールをもらったことは、子どもたちに大きな感動を与え、これから進路決定に向けて大事な時期を迎える子どもたちに、大きな活力を与えることができた。</p> <p>〈生徒の振り返り〉</p> <p>・二條選手の精神力と夢に向かってあきらめない気持ちがすごいと思いました。心に残ったのは「夢は叶えるもの」という言葉です。私も絶対に叶えたい夢があるので、この言葉を胸の中にとどめて、忘れないように頑張ろうと思いました。</p> <p>・突然足が動かなくなるところからパラリンピックに出ようと決め、実行できている二條選手はとてもすごいと思います。この機会にパラリンピックに興味がわいてきたので、2020年の車いすテニスに注目してみようと思いました。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○本校は、昨年度ロンドンオリンピック柔道90kg級銅メダリストの西山将士選手にお越しいただき、全校生徒参加で講演会と実技披露・柔道体験を行った。今年度はそのことを踏まえ、学年毎にパラリンピック競技に関する学習を行うように計画した。</p> <p>○各取組を単発で終わらせることがないように、事前学習や事後の取組、各通信を通じての保護者への周知、校内掲示を行った。</p> <p>○北九州市立障害者スポーツセンターと連携し、競技用車いすを10台借用し、多くの生徒に体験活動をさせた。</p> <p>○北九州市立大学とも連携し、大学生にも来校してもらい、準備・片付け、体験活動のサポートをしていただいた。</p>
8主な課題等	<p>○教師主導から、生徒会を中心とした、より生徒主体の取組への移行。</p> <p>○アスリートの依頼。</p> <p>○パラリンピック競技の道具の準備。</p> <p>○どの施設・学校にどんな道具があるのか、また各校で行った取組を共有することによる、知識・ノウハウの相互伝達。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○土曜授業や、総合の時間を活用して、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、来年度以降も継続して、取組を続けていく。</p> <p>○道徳や教科の学習の中に取り入れていくことにより、2020年以降も取組を続けていくように計画する。</p>